

世田谷は環境と文化を大切にしてきたのではないですか？

壊して建て替えるより建築を使い続けることが大切です



世田谷のシンボルを壊すのですか？

今、世田谷区では区民会館と区庁舎の建替の検討が進められています！！



これからの都市は歴史を継承することが大切です

JIA世田谷地域会は、これまで3回のシンポジウムを開催し、林望氏(作家 書誌学者)、篠田正浩氏(映画監督 早稲田大学)、多くの都市計画や建築の専門家から壊しては建て替えるのではなく、歴史を生かした成熟した街並みへ日本も変わっていくべきこと、そして何よりもこの区民会館と区庁舎は世田谷区民が子供たちに受け継いでいくべき貴重な文化資産であるとお話をいただきました。2008年12月、林望氏からは、イギリスでは自分達の街並みが100年経ても変わっていないことが地域の自慢になっていること、ナショナルトラストの活動等について語っていただきました。パネルディスカッションでは、歴史的な建築を表彰しその建築にプレートを掲げれば、街を歩くのが楽しくなるとの話題が出ました。2009年5月、篠田正浩氏の「前川國男の1959年」では「映画の中の建物は演じられる人間の所作の背景である。大事なのは人間であり、場のヒューマンスケールである。(中略)前川のコンクリート打ち放しの空間には、主張としての民主主義とヒューマンスケールの空間がある。街の表情として世田谷に9階建てが似合うか、いや人が変わっても区民会館とそのバックの空を変えてはいけないのでは」(文責 JIA世田谷地域会)と語られました。

自分が生まれた家、卒業した学校、就職した会社、成人式や結婚式の式場等、人生の記憶の場に、過去を振り返り訪れることができる人は、運のいい人となっています。豊かな社会とは歴史が継承した落ち着きある都市でこそ実現できるのではないのでしょうか。



Part1(2008.8.2) 世田谷区から庁舎問題の検討状況の説明があった。



Part1(2008.8.2) 設計を担当した元前川事務所の奥村氏から当時の説明があった。予算が厳しく、ほとんど構造のコストだけでつくられたという。



Part2(2008.12.21) 林望氏を招き区民会館で開催



Part3(2009.5.16) シンポジウムのロビーでは、模型を囲んで意見交換も

JIA世田谷地域会とは

(社)日本建築家協会(JIA)は、1987年に旧日本建築家協会(1958-)と日本設計監理協会連合会(1975-)が合併し発足した、建築の設計監理業務を行う「建築家」による日本で唯一の職能団体です。JIAは全国に10の支部を擁しており、支部の下に「地域会」を組織しています。私共「JIA世田谷地域会」は関東甲信越支部の地域会として2006年に発足しました。小学校における空間ワークショップの実施など、地域と建築を繋げる活動を展開しています。

JIA世田谷地域会URL

<http://www.jia-setagaya.com/>



国土館大学工学部 国広ジョージ研究室

国広研究室は、1998年に開設されたデザイン・計画系の研究室で、区庁舎横の世田谷キャンパスにあります。国広ジョージ教授のもと大学院生・研究生・学部4年生で構成され「建築における保存と再生」・「アジアの都市」をテーマに研究を行っている他、設計・デザイン・サーヴェイ・近代建築史研究など様々な方面での活動を積極的に行っています。

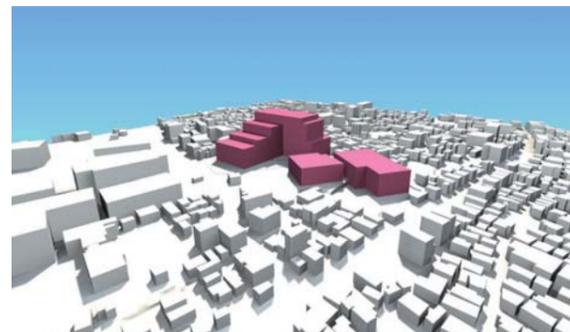
国広研究室URL

<http://www.eg.kokushikan.ac.jp/eng/kunihiro/>

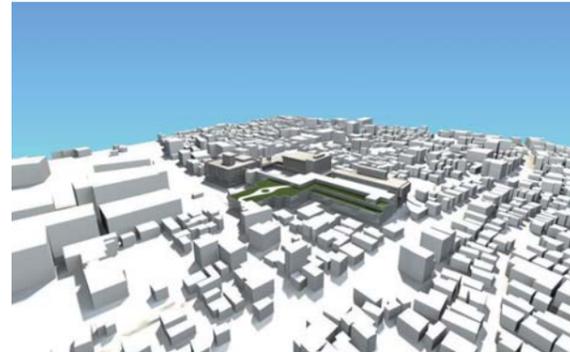
090302ProjectX/HP-index.htm

世田谷区民会館は区民の財産であり文化財です

すでに半世紀が経ち、区民会館で成人式を迎えた方、音楽や演劇を演じられたり聞かれた方、結婚式を挙げられた方、そして、様々な出会い、多くの区民が集い、区民会館と区庁舎には区民の記憶が詰まっています。区民会館と区庁舎は時代の最先端のシティホールとして、日本を代表する建築家前川國男により設計されたモダニズム建築です。子供達が遊ぶけやきと池のある前庭、心地よい木陰のある中庭、そこには世田谷らしい風景があります。世田谷区民会館は、文化財となりえる区のシンボルです。



区の報告書に基づく9階建ての新築(改築)案 突出したボリュームで空の印象が変わる



第一庁舎・第二庁舎・区民会館を改修し、第三庁舎部分を増改築した再生案(裏面参照)

建替に向けた検討が進んでいます

世田谷区は、平成16年度から「世田谷区新庁舎整備調査研究」を5年間かけて行い、平成17年、区議会に地方分権・庁舎問題等対策特別委員会を設置、平成20年5月に区内27カ所で「世田谷区役所庁舎問題報告会」を開催しました。そこでは、区民会館・区庁舎を現在地で建て替えることが望ましいとの報告があり、詳しい内容は5冊の報告書(概要版を加えて6冊)にまとめられました。そして、平成20年6~7月に区民597名に調査票を郵送後面談により聞き取り調査を実施、9月に議会ですの結果を報告、基本的に庁舎が狭陰化し防災拠点としての機能に不安があるという理由で、建替の方向が色濃くなっていきました。11月からは「本庁舎等整備審議会」が始まり、平成21年8月の答申に向けて審議が進められています。

建替には巨額の税金が必要になります

現在の区民会館と区庁舎は5階建てで約27500㎡です。報告書の検討では9階建てとし、63360㎡(内駐車場9500㎡)の庁舎と区民会館に建替えることが望ましいとされています。総事業費は234億円です。これまでのように人口が増えない今後の区政にどの程度の面積が必要なのか、また世田谷区がこれまで総合支所(世田谷・北沢・烏山・砧・玉川)に分散してきた機能をどう展開していくかを検討することが望まれます。JIA世田谷地域会は、国土館大学国広研究室と連携して、既存庁舎の大部分と区民会館を再生し一部を建て替えることで必要とする施設がつかれないか検討し、具体的な再生案の1つを作成しました。再生案では区建替案の7割以下の事業費で実現できる可能性があり、既存の区民会館と庁舎を改修し使い続けて、後世へ継承することができます。